

### 第3回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

●日 時 平成25年11月20日（水） 午前9時30分から午前11時50分

●場 所 我孫子市消防本部 大会議室

●出席者

委 員 中迫 哲朗(委員長)、北原 靖子、蓮見 元子、荻野 宏江、佐藤 正和、  
坂手 千代子、浦島 誠、佐野 史尚、小林 道治、佐藤 里美、大野 敦子、  
鈴木 幸子、内山 千寿

事務局 コーディネーター：深谷 幸子、森井 貴美子 サブリーダー：国居 和枝  
子ども支援課：相良、鈴木

川村学園女子大学 佐藤 哲康

オブザーバー 宮田 美智子

●事前説明

- \* 議事録作成のための録音許可について
- \* 傍聴要領の承認について
- \* 資料確認

#### 1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

- (1) 第一小学校の運営についての報告
- (2) 根戸小学校の運営についての報告
- (3) 第三小学校の運営についての報告
- (4) 湖北台西小学校の運営についての報告
- (5) 湖北台東小学校の運営についての報告

#### 2. 学童保育室及びあびっ子クラブの運営についての報告

- (1) 各学童保育室父母会と市長との懇談会について
- (2) 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向について〔資料1～3〕
- (3) 四小学童保育室の新築について

#### 3. 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について〔資料4ほか〕

#### 4. その他

次回の運営委員会開催の日程について

第4回 2月13日（木）9：30～11：30 教育委員会 大会議室

公開／非公開：公開

傍聴人：有り（2名）

## ●会議概要（要約）

### 【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 本会議は、原則公開となるので傍聴人に関して、ご承認いただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出は2名でした。
- ・ 資料確認
  - ① 第3回放課後対策事業運営委員会次第 及び〔資料1～4〕
  - ② 小学校低学年児童の放課後の過ごし方 追跡調査報告  
(川村学園女子大学放課後子ども研究会)
  - ③ 放課後子ども教室を利用する保護者の希望 結果報告  
(川村学園女子大学放課後子ども研究会)
  - ④ 湖北台東小あびっ子クラブだより

### 1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

#### (1) 第一小学校の運営についての報告

(委員長) あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について、それぞれの学校から報告をお願いします。まず第一小学校の運営について、報告をお願いします。

(委員) 第一小学校の運営について報告します。8月の後半から、あびっ子クラブの参加者数は落ち着いてきています。8月末には中学生の職場体験があり、我孫子中学校の生徒が2日間参加しました。新学期になってから10月中旬までは、暑い日が多かったので、体育館を利用する際には時間を短縮し、こまめに水分補給をしました。10月の初旬からは、4年生以上の部活がなくなったため、高学年の利用が増加しています。10月19日(土)には、バザーが開催され、あびっ子クラブとして、サポーターの方々に協力していただき、チャレンジタイムの作品や活動写真をメインルーム向かいの校舎の壁に展示しました。10月は台風の影響で2回閉室になりましたが、学校から保護者への連絡メールにあびっ子の閉室情報も一緒に送信していただきました。今後の予定としては、12月10日(火)に今年度2回目のチャレンジタイム体験まつりを開催します。あびっ子クラブの閉室時間が、11月から16時30分となり、12月からは、1年生から3年生の一人帰りは16時、4年生以上と迎えがある低学年は、16時30分となります。

続いて、学童保育室についてです。夏休みの短期生が退室したものの、2学期から入室した児童もおり、人数に変化はありません。また、学童保育児童の一人帰りも、11月から16時30分となっています。以上です。

(委員長) 一小的の報告について、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

## (2) 根戸小学校の運営についての報告

(委員長) 続いて根戸小学校の報告をお願いします。

(委員) 最初に学童保育室について報告します。11月12日(火)に就学時前健診がありました。また、全ての学童保育室でお買い物ごっこを行い、とても盛り上がりました。

今後の予定としては、各学童保育室でマフラーづくりを行います。

その他の報告としては、1年生の児童が学童保育室を利用予定であったにもかかわらず、帰宅してしまったことが2回ありました。その際に、慌ててしまったスタッフもいたので、スタッフ同士でミーティングを行い、今後そのような事態になった場合の対応について話し合いました。

続いてあびっ子クラブについてです。10月に入ってからの利用人数は、平均42名でした。11月時点であびっ子クラブに登録している児童は、902名ですが、1回もあびっ子クラブを利用していない児童が何名いるか調査したところ、11月6日時点で1年生は8.6%の子が1回も利用していないことが分かりました。この結果から、スタッフが予想していたよりも多くの児童があびっ子クラブを利用していることが分かりました。

大きな活動としては、10月21日(月)の振替休業日にサポーターの方々に協力いただき、根戸小あびっ子クラブの3周年記念イベントを開催しました。今年度は、学童保育室とあびっ子クラブ利用児童の全員参加で行いました。今後も学童保育とあびっ子クラブのスタッフで協力して、学童保育とあびっ子クラブ利用児童の全員が参加できるようなイベントを企画したいと思います。また、先日の11月17日(日)には、「北部地域市民文化祭」にあびっ子クラブの子どもたちがサポーターさんと一緒に琴の演奏で参加しました。参加した子どもたちにとっても地域の方々にとっても、非常に良い機会になったと思います。以上です。

(委員長) 根戸小学校の報告について、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

## (3) 第三小学校の運営についての報告

(委員長) 続いて第三小学校の報告をお願いします。

(委員) 最初に学童保育室について報告します。現在の登録児童数は78名で、登室児童数は平均60～65名です。学童の様子は、元気な児童が多いものの、広い部屋で皆落ち着いて生活できています。最近日没が早くなり、外遊びの時間が

短くなるので、おやつ時間を早め、外遊びが少しでも多くできるよう工夫しています。

続いてあびっ子クラブについてです。体育館の耐震工事が始まり、体育館が使用できず、9月と10月は陸上部の練習で校庭も使用できなかったため、あびっ子クラブの利用人数も減りましたが、部屋の中ではトラブルもなく過ごすことができています。学童保育室で落ち着けない児童が数名いるのですが、あびっ子クラブで囲碁を1対1でやると心が満たされ、学童に帰った時には、落ち着いて過ごすことができました。台風の際は、あびっ子クラブを閉室しましたが、被害等もなく特に問題はありませんでした。あびっ子クラブを支援学級の児童が数名利用していますが、最近利用しない児童がいたので、支援学級の先生に確認したところ、「あびっ子クラブでの生活を経験し落ち着いてきたので、最近、あびっ子クラブではなく公園で遊んでいるみたいですよ。」とのことでした。あびっ子クラブでの生活で経験を重ね、成長していく過程をみることができ、非常に嬉しかったです。以上です。

(委員長) 第三小学校の報告について、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

#### (4) 湖北台西小学校の運営についての報告

(委員長) 続いて湖北台西小学校の報告をお願いします。

(委員) 最初に学童保育室について報告します。11月16日現在の登録児童数は、28名です。現在外遊びは16時30分までです。あびっ子クラブ利用の子たちには16時20分になるとスタッフが声かけし、部屋に戻り帰宅の準備をします。一方、学童保育の児童は、16時30分ギリギリまで遊んでから学童保育室に戻っていきます。18時以降も、学童保育室には児童が結構残っており、テンションが上がり走り回ってしまう児童もいるため、なるべく座って静かに遊びながら、保護者の迎えを待つように工夫しています。

続いてあびっ子クラブについてです。10月からあびっ子を利用している1年生の児童の保護者が、サポーターとして活動してくれています。1年生の子どもたちから非常に人気があり、スタッフの日常の大変さも分かっていただけで、とても助かっています。また、10月の就学時前健診の日に台風が直撃したのですが、あびっ子クラブの開室時間変更等について学校と協議し、担任の先生を通じて変更時間等を周知していただいたので、利用に関してトラブルなく運営することができました。以上です。

(委員長) 湖北台西小学校の報告について、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

## (5) 湖北台東小学校の運営についての報告

(委員長) 続いて今年オープンした湖北台東小学校の報告をお願いします。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブは6月にオープンし、利用人数が非常に多かったり少なかったりと変動がありましたが、8月のお盆過ぎからは利用人数が減ってきました。9月になると、1学期や夏休みに来ていた児童ではなく、今まで来ていなかった新たな児童の利用がありました。土曜日の利用人数は、とても減ってきたので、学童保育室と合同開室を考えています。学童保育室の登録児童数は、現在33名ですが、毎日27名前後が登室しています。学童保育室では、外遊びが終わって時間がある時や雨で保育室以外に行く場所がない時には、3階のあびっ子クラブに来て遊ぶ等、上手にあびっ子クラブを利用しています。先ほど、根戸小あびっ子クラブの報告にあった1回もあびっ子クラブを利用していない児童が何名いるかの調査を湖北台東小あびっ子クラブでも行いました。現在、東小あびっ子クラブでは231名の登録があり、利用したことがある児童は全体の89.2%、低学年では94.9%、高学年では76.3%でした。特に1年生の利用率が高く、1回も利用したことがない児童は1名だけでした。以上です。

(委員長) 湖北台東小学校の報告について、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

## 2. 学童保育室及びあびっ子クラブの運営についての報告

### (1) 各学童保育室父母会と市長との懇談会

(委員長) 学童保育室及びあびっ子クラブの運営についての報告です。まず、学童保育室保護者と市長との懇談会について、事務局から報告をお願いします。

(事務局) 学童保育室保護者と市長との懇談会について報告します。懇談会は、10月27日(日)14時から、場所は天王台北近隣センターで開催しました。主な懇談内容は、数年来要望が上がっている学童保育室の7時30分開室について及び布佐南小学童保育室の運営についてでした。7時30分開室については、多数の要望があるものの、お迎え遅れの多さや学童保育料の滞納等の問題があること及び一日保育全ての日を7時30分開室にすることは経費やスタッフ確保の面からも難しいことを伝え、何かできる方策はないか話をしました。保護者からは、学校行事の振替休業日や新1年生が利用する4月初めの1~2週間だけでも、7時30分開室にしてほしいとの意見が出ました。市としては、お迎え遅れによる超過利用保育料の徴収が始まって半年経過しましたが、遅れても超過利用保育料を払えば良いのだろうとの意見で改善しようと思っていない利用者が少なからずいること及び学童保育料の滞納も減らない現状を伝え、保護者の方々には、そのような現状を無くしていく努力をしていただくとともにスタッフと一緒に7時30分開室については、継続して検討することとしました。

また、布佐南小学童保育室については、近年利用者が少ないこともあり、今後の学童保育室運営について、昨年度から保護者及びスタッフと継続協議してきました。今年度は、利用者が少ない土曜日のみ布佐小学童保育室との合同保育を実施していますが、平日でも利用者が1～2名の時があるため、今後の運営の在り方について検討してきました。その中で案として挙げられたのが、学童保育の部屋を利用したあびっ子クラブの併設です。案をもとに、布佐南小学童保育室のスタッフと保護者の方々と協議していただいた結果、学童保育室が存続できるのであれば、あびっ子クラブの開設にむけて協力していくとの意見でした。市長との懇談会前の時間を利用した全学童保育室に向けての説明会及び市長との懇談においても反対意見はなく、布佐南小学童保育室保護者からは、是非開設してほしいとの意見があったため、懇談会後に教育委員会、学校、地域の方々と協議した結果、平成26年6月を目途に学童保育室と併設した布佐南小あびっ子クラブを開設することとなりました。したがって、平成26年度は、並木小と布佐南小の2校であびっ子クラブを開設することとなりました。以上です。

(委員長) 引き続き、放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向について事務局から報告をお願いします。

## (2) 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向について

(事務局) 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向について報告します。

平成27年4月施行に向けて、国が学童保育の基準づくりを検討しています。現在でも学童保育の望ましい基準として1クラスの定員が40名と示されていますが、専門委員会の中でも具体的な定員数として、1クラス40名までと目安が示されています。ただし、全ての学童保育室の定員を40名とすると、教室が不足したりすることから、経過措置として最大70名までは認めるとの意見も出ています。また職員の配置についても、現在は公設公営、公設民営、民設民営、各施設の状況に応じた配置となっていました。今回の基準では、各クラスに職員を最低2名は配置するよう義務付ける方針です。我孫子市では過去に指導員組合との協議を重ね、既に各学童保育室には嘱託職員2名が常駐する配置をしており、国で検討している基準は上回っています。その他にも指導員の資格、学童専用スペースや静養室の確保等が議論されています。

以上です。

(委員長) 続きまして、四小学童保育室の新築について事務局から報告をお願いします。

## (3) 四小学童保育室の新築について

(事務局) 四小学童保育室の新築について報告します。現在、四小学童保育室は二保育室とも校舎内で運営しています。今年度、学校敷地内に軽量鉄骨二階建て、延床面積約320㎡の学童保育室新築工事を行っています。前回の運営委員会で

は、他の公共工事の影響もあり入札が不調であったとの報告をしましたが、8月に再入札を行ったところ9月中旬に業者が決定し、10月から本格的に工事を開始しました。現在は、基礎工事を行っており、来年3月15日の完成を目指しています。完成後の春休みには校舎内から新しい学童保育室に引越し、来年度からは新しい学童保育室で運営したいと考えています。以上です。

(委員長) 事務局から3つ報告がありました。何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

### 3. 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について

(委員長) 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について報告をお願いします。

(委員) 川村学園女子大学放課後子ども研究会として、2010年から2012年の3年間、小学校低学年児童の放課後の過ごし方における追跡調査を行いましたので、結果を報告します。放課後の生活は、子どもたちの健やかな発達に欠かせないものです。そこで、生活の実態やあびっ子クラブの役割、設置の効果を研究しました。調査は、2010年当時あびっ子クラブを開設している学校を含め5校の1年生全児童と保護者を対象としました。結果として、放課後の活動は、学年が上がるにつれて子どもが積極的になることが分かりました。またよく行く場所としては、公園や習い事、友だちの家が多かったのですが、学童保育やあびっ子クラブにも行っていることが分かりました。あびっ子クラブを開設したことによる保護者の地域評価は、「放課後の子どものよい居場所が近場にある」「子どもは地域の方々に支えてもらっている」という項目の評価が上昇していました。今年からまた新たな研究をしますが、対象校は、湖北台東小、並木小、我孫子第四小学校です。あびっ子を開設した学校やあびっ子クラブのない学校の放課後の過ごし方の変化や子どもたちが放課後どのような環境のなかで活動をしているのか等を把握できるような調査を行いたいと思います。

点検評価に関連する研究報告は、別途させていただきます。以上です。

(委員) それでは、点検評価に関連する研究報告をさせていただきます。

あびっ子クラブを利用する保護者の方々のニーズについて、あびっ子クラブと学童保育両方を利用している児童の保護者を対象に調査を行いました。保護者は、子どもにとって楽しい体験ができる、全児童が対象のため異学年との交流が図れる等あびっ子クラブの良い点を挙げ感謝している方が多かったのですが、子どもたちからは、あびっ子に行ってもつまらない、利用手続きが面倒等の苦情や改善点を求める意見が挙がっていました。立場の違いから、外からみている保護者と中で利用している子どもたちとの間で評価が異なることが分かりました。

今後のあびっ子クラブに関する期待としては、地域のサポーターやスタッフの

増員、利用時間の延長、保護者だけでなく子どもたちに向けたPRをしてほしい、学童保育とあびっ子クラブの交流を深めてほしい等がありました。以上です。

(委員) 引き続きまして、放課後対策事業運営委員会における点検評価の在り方について説明します。あびっ子クラブは、良い形で機能しており、我孫子市も放課後の子どもの在り方についてよく取り組んでいると思います。しかし、調査データをみると、決して良いことばかりではないことが分かります。先程の報告にあったように、利用している子どもからすると不便なことや改善点が挙がっていましたが、あびっ子クラブは、学童保育室との兼ね合いや保護者の手助け、地域参画の側面もあるので、利用している子どもの意見だけ聞けば良いわけではなく、この運営委員会で関係者が集まって議論し見守ることが必要だと思えます。これまでの運営委員会の点検評価は、コーディネーターから学童保育室やあびっ子クラブの運営についての報告や事務局から資料データ説明があり、提供される情報量がとても多いため、どのように整理して評価をすれば良いか分からない状況でした。しかし、あびっ子クラブは年々増えており運営も順調であろうとのことで質疑となっても、特に意見が出ない状況でした。しかし、あびっ子クラブを開設し増えていけば良いのではなく、せつかくこのような運営委員会があるので、運営の在り方を点検評価していく情報交換の仕方を検討したいと考えています。

点検評価するにあたり、まず、振り返りたい事柄は何か整理する必要があります。具体的には、4点ほど挙げさせていただきます。1点目は、開かれた活動の場としてきちんと機能しているか、2点目は、安全安心な場になっているか、3点目は、体験活動として楽しく充実した活動の場になっているか、4点目は、地域の方や保護者と連携ができていますかです。振り返りたい事柄が分かったら、次に、事柄は何を使って把握すれば良いのかを考えます。代表的な案を挙げると、参加という視点では、各学年の登録率、根戸小や湖北台東小の報告にあったような実利用率、学童保育登録有無の利用率比較が必要だと思えます。また、就学時前健診や保護者会がある日等の利用人数が非常に多い日は、普段の日とは別に計上しておく必要があると思えます。その他質的なものとして、特別に配慮が必要な児童に利用するチャンスが与えられているか把握することも必要です。安全安心の視点では、まず事故発生件数です。大きな事故は無いと思えますが、無いというデータを出すと安心だと思えます。その他としては、コーディネーターの方々から、サポーターを含めて人手が足りなくて困った日があると聞いているので、人手が足りた日の割合は必要だと思えます。

また、質的なものとして行帰りや不測時の対応などは、これまでどおり詳しく伺いたいと思えます。続いて体験活動についてですが、チャレンジの実施回数や人数は、事務局からいつもデータをいただいているので非常に良く分かります。さらに量的なものとして、子どもたちは色々な場所で自発的に遊びたいよ



うなので、メインルーム以外の校庭や図書館等で活動できたのか把握する必要がありますし、質的なものとして、あびっ子クラブで行われている活動の様子は、これまでどおり報告していただければ良いと思います。また、サポーターの登録者数や参加状況は詳しく分かった方が良いでしょう。量的なものとして、夏休みや冬休み期間中は普段の日と違うとコーディネーターから伺っているので、集計を分けた方が良いでしょう。また、質的なものとして、地域連携などを積極的に取り上げていけば良いでしょう。

最後に振り返りの流れについてですが、この運営委員会は年に4回あり、1回目は顔合わせが中心になるので、振り返り事項や方法の確認程度にしておき、前年度活動に対する振り返りは、2回目にきちんと行えば良いでしょう。また、今回行ったようなアンケート調査結果は、当事者の声として合わせて議論し、最終回は、次年度以降の活動への課題を話し合えば良いでしょう。この運営委員会は関係者が集まる場なので、皆で振り返りの流れを議論できればと思います。以上です。

(委員長) 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について報告がありました。何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

(事務局) 質疑等はないようですが、点検評価の在り方の振り返りたい事柄を本日皆さんから意見をいただき、追加削除をしながら整理し、来年度活用していきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。まず参加率については、学校の行事等に関係なく全ての日にちで平均利用数を出していますが、保護者会や夏休みの7月後半から8月前半、振替休業日は明らかに利用者数が違います。また11月からは16時30分閉室としており、日が暮れるのも早いため利用者は減ってきます。様々な状況により利用者数が変わるので、皆さんの率直な意見を伺いたいと思います。参加に関する事柄は、3点ほど提案していただいているのですが、たくさんの児童が登録しているかについては、通常集計している登録率でよろしいでしょうか。

異議なし。

(事務局) 2点目として、登録している児童のうち、どのくらいの児童が利用しているかについてですが、実際に根戸小あびっ子クラブでデータを集計したので、根戸小コーディネーターから集計方法について説明をお願いします。

(委員) 登録している児童全員の名簿を使用し、あびっ子クラブを利用した児童にはその都度丸をつけていき、丸がついていない児童を随時チェックしていきました。

(事務局) 根戸小あびっ子クラブで集計したデータは、一人が何回利用したことを把握するのではなく、より多くの児童がどのくらいあびっ子クラブを利用したかを把握するものです。より多くの児童が登録し、かつ多くの児童が利用していることを把握することは、今後のあびっ子クラブを運営していくうえで必要だと思いますが、いかがでしょうか。

(委員) 1回は利用したことがある児童が多くいたとしても、全体の利用者数が増えていない場合には、利用してみたものの、イマイチだったと推測できるので、把握する必要があると思います。

(事務局) 安心安全については、前回の運営委員会でも事故とケガのデータを出しましたが、コーディネーターからは、擦り傷程度や湿布を貼っただけのケースまで運営委員会に報告するデータに計上すべきかとの意見が出ました。児童の見守りの人手については、足りなかった日をチェックし、その理由を把握するようにすれば良いのではと考えています。また、行き帰りなどで心配なことはないかについては、どのようにして委員の皆さんに提示したら良いか、意見をいただきたいと思います。

(委員) 事故とケガのデータについては、あまり細かいケースまで必要ないと思うので、今までと同様に傷害保険請求の該当ケースで良いと思います。

(委員長) 事故とケガのデータについては、傷害保険請求の該当ケースで良いとの意見が出ましたが、PTA代表の方、いかがでしょうか。

(委員) 細かいケースまで把握するとなると、かなり大変だと思うので、今までどおり傷害保険請求の該当ケースで良いと思います。

(委員長) 事故とケガのデータについては、傷害保険請求の該当ケースとしますが、いかがでしょうか。

異議なし。

(事務局) 次に見守りの人手が足りているかについてですが、川村学園女子大学としてはどのようにイメージしていますか。

(委員) 以前にデータを提示した時は、日によって活動場所が異なるので、ひとつの場所毎に2人程度の見守りを目安としました。しかし、コーディネーターに聞いたところ、2つの場所で活動していたとしても、互いの距離が近い遠いにより、見守りの人数も変わることだったので、現時点でのイメージとしては、活動場所毎に1人から2人ぐらいの見守りがいることを想定しています。各あびっ子クラブによって、様々なケースがあるので見守りを何人と決める必要はないですが、活動場所に見守りが1人もいないとなると心配です。

(事務局) 三小あびっ子クラブでは、実際に人手が足りない状況はありますか。

(委員) 昨日ドッジボールを行った時には4人スタッフがいましたが、ほとんどの

子どもが外に行き、部屋に残る子どもが少なかったので、部屋が2部屋あるもののスタッフ3人が外へ行き、1人が部屋に残りました。活動場所により人手が足りない場合は、学童保育室と連携して外遊びの時間を一緒にする等の工夫をしています。日により子どもの利用人数も異なるので、一概にスタッフの人数だけで人手が足りるか判断するのは難しいです。

(委員) 人手が足りない時は、工夫しながら対応しているようなので、そのような日が何日あって、人手が足りなかった原因は何だったのか把握しておけば、運営委員会において議論できると思います。

(委員長) 人手が足りているかについては、コーディネーターの方々にデータの提供をお願いすることになりますが、いかがでしょうか。

(委員) あびっ子クラブ閉室後にスタッフに聞き取りをすれば、人手が足りていたか把握できると思います。

(事務局) それでは、人手が足りなかった日にちと理由をコーディネーターが記録し報告することとしますが、いかがでしょうか。

異議なし。

(事務局) 次に行帰りや不測時の対応等についてですが、どのように振り返れば良いでしょうか。

(委員) 行帰りや不測時の対応のような質的なものは、毎回コーディネーターの方々が口頭で説明していただければ良いので、量的なもののように数字で出さなくても良いと思います。

(事務局) それでは、毎回コーディネーターが行っている活動報告で、行帰りや不測時の対応等を話していくことにしますが、いかがでしょうか。

異議なし。

(事務局) 次は体験活動ですが、利用の流れが児童にきちんと伝わっているかについては、どのように振り返れば良いでしょうか。

(委員) 利用の流れが児童にきちんと伝わっているかについては、今後コーディネーターから子どもたちへの聞き取りや学校に協力していただきアンケート調査の実施が必要だと思います。また、利用開始前にきちんと利用方法を周知することが重要だと考えます。

(事務局) あびっ子クラブがオープンする学校の低学年や各校の1年生は、利用開始前に授業中体験する時間を設けているので、実際に利用する時にはスムーズにできています。

(委員) ちなみに根戸小は1年生が8クラスあり、授業中に体験する時間を設けることができなかったので、子どもたちがあびっ子クラブに来た時には

クラスごとに並べて、一人ずつ説明しました。

(事務局) アンケートを実施するのは少しハードルが高いので、利用開始時の様子をコーディネーターから活動報告の中で伝えていくとしたいのですが、いかがでしょうか。

異議なし。

(事務局) 次に児童が望む多様な活動についてですが、外遊びと内遊びに関して、アンケート調査では校庭の利用制限が改善点で挙がっていましたが、どのように振り返れば良いでしょうか。

(委員) メインルームとは別に、30分ぐらい体を動かせる場所として校庭や体育館が選択肢の一つとして用意できたかが大事です。振り返る際には、開設日のうちどれだけ複数の活動場所が提供できたかの割合が分かれば良いと思います。

(事務局) 根戸小あびっ子クラブでは、通常メインルームの端で卓球を行っており、体を動かすことができているものの、校庭や体育館のように場所の提供ではないと思われませんが、どのように考えれば良いでしょうか。

(委員) 子どもの立場からすると、遊びたいのに校庭や体育館の利用制限があることに不満のようなので、不満の原因が把握できれば良いと思います。

(委員) 子どもが校庭等の利用制限を不満に挙げたのは、遊びが途中で区切られてしまうような時間制限が原因であり、あびっ子の閉室時間が関係していると思います。

(事務局) 外遊びとしては、体育館の耐震工事で使用できない学校もあるため、校庭と体育館を一体で考えた方が良く考えます。体育館と校庭を個々の場所として限定してしまうと、実際に外遊びができているのか判断が難しいので、耐震工事を行う今年度と来年度については、校庭と体育館を一体として考え、使用できたかをチェックしたいと思います。また使用できなかった場合の工夫は、運営委員会で報告していきたいと思います。

(事務局) 続いて、新しい体験学習の機会があるかについてですが、サポーターの数や参加できる人数等によって変わってくると思います。体験学習の内容や回数、平均利用人数は運営委員会でデータを出していますが、その他に何か必要な項目がありますか。

(委員) 学校の協力のもと連携して何か体験していることがあれば、今後情報提供していただきたいと思います。

(事務局) 体験活動の写真は撮っているので、今後情報提供していきたいと思いますが、その他意見がないようなので、体験活動については、今まで通り運営委員会で事務局からデータを出していき、委員の方々から知りたい内容や項目が出てきた場合には、その都度意見をいただくことにしたいと思います。

いかがでしょうか。

異議なし。

(事務局) その他のサポーターについてですが、前回の運営委員会ではサポーターの登録人数はお知らせしましたが、保護者がサポーターとしてどのくらい活動しているかの比率は出していません。根戸小地区の自治会や団体の方々からは、もう少し保護者の協力があった方が良いとの意見もいただいています。実際のところ根戸小の保護者は共働きの方々が多いため、サポーターとしての参加は少ないです。

(委員) 参加は少ないかもしれませんが、保護者がどのくらい参加しているか把握する必要はあると思います。

(事務局) 保護者がサポーターとしてどのくらい参加しているかのデータは、各あびっ子クラブで容易に出すことができるので、今後の運営委員会でお知らせしたいと思います。また、これまでに挙げさせていただいた振り返りの方法ですが、新しい体験学習の機会については今後検討していくとしますが、それ以外の事柄の情報は、既にあるデータやいただいた意見をもとに、今後委員の方々にお示ししたいと思います。

次回の運営委員会では、可能なかぎり各事柄の情報をお示し、振り返りの流れの決定について協議していきたいと思います。

(委員長) 全体を通して何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

#### 4. その他

(委員長) 次回の運営委員会の開催日程について、事務局からお願いします。

(事務局) 今年度第4回目の運営委員会は平成26年2月13日(木)9時30分から11時30分です。会場は消防本部大会議室ではなく、教育委員会の4階大会議室です。なお、駐車する際には、植栽等があるため、前向き駐車をお願いします。

(委員長) 本日の傍聴人の方々から何かご意見がありましたらお願いします。

(傍聴人) 子どもたちが放課後の過ごし方の追跡調査の中で、あびっ子クラブでは、いろいろなことを教えてくれる大人がいるという情報があり、非常に興味を持ちました。以前から、子どもたちと高齢者が交流できる場があれば良いと思っていましたので、あびっ子クラブや学童保育室独自でイベント等を開催するのではなく、高齢者から様々な事を教えてもらえるような、あ

びっ子クラブや学童保育室になってほしいと思います。また、あびっ子クラブや学童保育室の活動状況を知らない市民が多いようなので、広報活動を上手くやってほしいと思います。以上です。

(傍聴人) あびっ子クラブや学童保育室は、市内の子どもたちが放課後過ごす場所として平等に利用できるようにしていただきたいと思いました。また、先程の意見にもありましたが、保護者は共働き等で時間がないと思いますが、60代や70代の高齢者は時間に余裕があるので、是非活用していただきたいと思います。以上です。

(委員長) その他、何かご意見等がありますか。

意見等なし。

(委員長) 特にないようなので、以上で、本日の運営委員会を閉会とします。ありがとうございました。

**【閉 会】**